#### 住みよい武石をつくる会広報

# 位みよいたけし

#### 2021年12月16日発行

事務所 武石地域総合センター内 TEL:0268-85-3667 https://www.s-takeshi.jp 印 刷 中澤印刷株式会社





来春の子檀嶺神社御柱大祭に向け11月7日(日) 斧入れ・山出し祭並びに御神木を信広寺前まで搬送して鎮座祭が行われました。

立冬を迎えたこの日は、朝から青空が広がる好 天に恵まれました。今回の祭りは、コロナウイル ス感染拡大防止のため、春の注連張り祭に続き参 加人数を制限して、氏子総代、祭典委員、世話人、 斧方、木遣、来賓等100名ほどの関係者の参列で 行われました。

御神木は、番所ヶ原スキー場から1キロメートルほど県道を登った、標高1400メートルの上本入焼山国有林内にありました。斧入れ式では、清は宮司により一連の祭事が執り行われた後、白丁(白の神職衣装)姿の斧方3名が御神木に「やー、やー」の掛け声とともに斧を打ち込みました。その後玉串奉奠、北沢武氏子総代会長のあいさつ、来賓祝辞、参加者による乾杯が行われ、いよいよ御神木の伐採となりました。

御神木は樹齢187年、樹高約30メートル、胸

高直径が約80センチメートルの樅の大木です。小山林産の重機が、根回りを掘り進み、樹の上部に結んだワイヤーに引っ張られた御神木はやがて倒されました。「思ったより根がしっかり張っていて、倒すのに手間取ってしまった」と小山林産の小山社長。

その後、梃子方や小山林産の皆さんが、根の間の石や土を落とし根回りを短く整え、枝を落とし決められた長さに切断し、皮がむかれ3箇所に引き綱を取り付けるための穴空けが施され、ようやく御柱が完成しました。

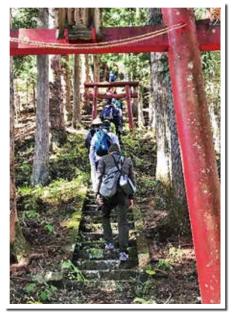
日程は大幅に遅れ午後4時近くに山出しとなりました。御神木が下武石信広寺前の安置場所に到着し、鎮座祭が行なわれる頃にはいくつか星が輝いていました。早朝より陽の当たらない底冷えする谷間で祭りの運営に奔走した関係者の顔にも、ようやく安堵の表情が浮かんでいました。

御神木は来年4月10日までこの場所に安置され、御柱大祭の曳行を待ちます。

#### スポーツの秋、ウォーキングの秋

住みよい武石をつくる会健康福祉体育部会主催の『たけし紅葉めぐりウォーキング』が11月6日(土)に行われました。

今回はコロナ防止の観点から参加は武石地域内の方に限り、 雲一つない秋晴れのもと小学校1年生から70代まで23名の 参加者が思い思いの足どりで練馬区武石少年自然の家から上 小寺尾まで歩き、武石の秋色をじっくり堪能しました。



「ベルデ武石」の西側山裾にある稲荷神社。武石には珍しい長い石段と連続鳥居です。

またこの日は、武石スポーツ協会主催のウォーキングも築地原・大布施地区で行われました。

11月20日(土)には、つくる会子育て教育文化部会主催で、「たけしカルタ歴史さんぽみち」が開催され、お仙が淵、築地原地蔵堂、上小寺尾の風天様、踊念仏供養塔などを巡り、20名の参加がありました。

この秋の上本入は、 ウォーキングイベント満 載エリアとなりました。



急坂の登山道を辿った崖上には凛と立つ『風天様』 の威容が・・・。元々は風避けの神様も、この日は疫 病コロナの鎮静を念じているかのようでした



歴史さんぽ道 踊念仏供養塔の前で

### 地域再生マネージャーと懇談

地域の再生には、住民主体の持続可能な体制整備を図るとともに、ビジネスを創出して雇用に結びつけ、地域が自立的に行動できる仕組みを構築することが必要です。

市では、武石地域におけるこのような取り組みの可能性を探ろうと、地域総合整備財団の地域再

生マネージャー事業として、専門家による地域課題の抽出と課題解決に向けた方向性の提言を受けました。

7名の専門家は、10月27日から29日にかけて武石地域の観光施設や練馬区少年自然の家の視察などを行い、また、つくる会役員との懇談も持たれ、提言を行いました。その中で武石地域は

- ① 道路など都会との交通条件が良い
- ② 地域づくり資源が非常に豊富
- ③ 70万都市練馬区との強い関係がある

などの好条件があり、これら資源をうまくつなげていくことが重要ではないか。また、地域の目先の課題に取り組むことに忙しくなってしまっているが、地域がどこに向かうのかの共通ビジョンがない事が一番の難点との指摘がありました。

### 地域人権教育講演会

11月6日(土)、武石公民館ホールにおいて、武石地域人権教育懇談会が開催され、伊那市出身のシンガーソングライター伊藤ひよりさんが講演しました。約100名が聴講しましたが、伊藤さんは予想を越えて参加者が多かったと感激し、思わず涙ぐむ場面も。

伊藤さんは、保育士を経て5年前からピアノの 弾き語りの歌手活動をしています。「男性」として 生まれましたが、子供のころから「自分は女の子」

としての意識が強いいわゆる「性同一性障害」で、成長するにつれ身体と心の性の違いについて悩み、それゆえのいじめも受けてきました。保育士として就職しましたが子供の保護者や上司の理解が得られず自殺を考えたこともありました。しかし同僚の励ましもあり、メンタルクリニックを受診するなり、女性として生きられるようホルモン治療や性転換手術も受けてきたとのことです。

最近ようやくLGBTQ(レズ、ゲイ、

バイセクシャル、トランスジェンダー、クエスチョニング)が世間に認識されるようになってきましたが、こうした人は意外と多く、左利きの人と同じくらいの約8%ほどいるとのこと。決して特異な存在ではなく、いわば人間の一つの個性のようなものと言えます。こうした状況を受け入れ、人の生き方の違いや多様性、可能性を認められる社会になっていってほしい、との願いのこもった講演でした。



#### 小学生のブロッコリー収穫体験

10月18日、武石小学校2年生がブロッコリーの収穫体験をしました。

秋晴れのこの日、上小寺尾の竹内利通さんのブロッコリー畑に、子供たち24人の声が響き渡りました。この日は、武石地域の主要な農産物の

一つブロッコリーの収穫体験です。竹内さん夫婦とともにJAの職員6名も協力しました。

最初に竹内さんから、「世界では1日数万人の子供が飢餓で死んでいるというが、武石は見る通り緑の中で野菜を育てることができる。皆さん

の中にはブロッコリーが苦手な人もいると思うが食べて好きになっていってほしい」と挨拶がありました。JAの職員からブロッコリーの栽培方法や栄養などについて説明があった後、一斉に畑に散らばり一人2つずつを収穫しました。これはお家へのお土産です。

その後大きな鍋で茹でられたブロッコリーをマヨネーズやドレッシングでいただきました。中には6,7回お替りする子も。お家では茹でたりシチューに入れるのが好きという子が多くいましたが、青空の下で食べる取りたてのブロッコリーは、今まで感じなかった甘さに気が付くなどまた格別だったようです。

## ともしびの里文化祭 《おさんぽギャラリー開催》

10月30日(土)、31日(日)の両日、第48回ともしびの里文化祭が新装なった武石総合センターコミュニティーホールを中心に開催されました。一昨年は台風19号災害、昨年はコロナ禍で2年続けて開催されなかったため3年ぶりの開催となります。



15団体と個人の作品が会場に展示され、作品の前では作者の名前を知人に尋ねている仲間連れや、自分の作品を友人に説明しているグループ、またお子さんの作品をお母さんと見に来た親子など、あちらこちらで会話がはずみ、久しぶりの文化祭を楽しんでいました。

また、文化祭に合わせ、10月30日は武石風土 つなぎ隊主催のおさんぽギャラリーが開催されま した。会場となった「つなぐ家」や「ギャラリーク



軽トラ市

ラノマ」周辺では、朝早くから手作り加工品やミニ玩具、農産物の販売などで、多くの人々で賑わいました。今回は軽トラ市が初めて出店し、地元農家が作った新鮮な野菜を販売、お客さんは荷台を覗き込んで品定めをしながら買物をしていました。また、「ギャラリークラノマ」前では、「ふれあいカフェ武石」の皆さんによるハンドドリップコーヒーの提供が行われ、訪れた人は淹れたてのコーヒーの味と香りを楽しんでいました。



「ふれあいカフェ武石」の皆さん

## 御柱 お練り行列に向けて

武石の御柱は、特に華麗なお練り行列が奉納されることで近在に知られています。来春に向け、お練り行列の準備がお練り保存会によって始められています。

この12月には、大長刀など奴役を各地区から 推薦してもらうほか小長刀、笛・太鼓などその他 の役柄も来年1月下旬には推薦を受け、2月から はいよいよお練り行列の練習が始まる予定になっ ています。





# 第10回 たけし歴史さんぽ道

## 渋沢栄一、小県は第二のふるさと

郷土史家 児玉卓文

大正6年5月15日付『信濃毎日新聞』は次の記事をのせています。

午後3時40分小諸駅に到着、(略)軽井沢よりの車中おいて(渋沢)男爵は浅間山麓に今を盛りと咲き満てる山桜の花を物珍しげに眺めつつ物語れる懐旧談は下の如し。私は武州深谷在1里程の田舎に生まれたが、信州の佐久・小県2郡は第二の故郷とも言いたいくらいに懐かしき土地なり。今より60年前の昔私が14才の頃、父の荷物背質いをして佐久・小県へ1年4度くらい参りたり。19才よりは父に離れて藍屋商売を独立で営み、22才の時まで前後7年間当地へは繁々と来るが、(略)昔、当地へ来る道筋は香坂峠、志賀峠、ないしは南佐久の内山峠を越えるが例にて、佐久の地より小県の武石・内山(村)・依田窪・塩田平等を廻りて上田に出て、柳町には必ず滞在する都合にて(略)

地元の名士たちが居並ぶ小諸での談話であるにも関わらず、佐久の個々の村名をいわず、佐久からいきなり武石、さらに依田窪・塩田平という地域名にはびっくりです。この時栄一は77歳です。記憶力が抜群なのでしょうが、印象に残る地域でもあったと思いたいですね。地元の者としてはうれしくなります。

「藍の売買は信用取引で、まず値段も決めずに藍を紺屋(染物屋)に送り、後に送り先の紺屋を回って使った分の料金をいただきました。」旅のいでたちは、「信州へ商売で出かけたときは普通の商人の身なりで、角帯を締め、半股引に脚絆、草鞋ばきという支度で、道中の用心に脇差を一本差したが、私は撃剣を学んでいたから、少し長いものを用いた」と言っています。

大河ドラマ『青天を衝け』のタイトルは、安政5年(1858)10月、学問の師で従弟の尾高新五郎と二人で作詩しながら商いで信州を回り編んだ漢詩集『巡信記詩』にある『内山峡』と題した詩の一節「勢いは青天を衝き」にちなみます(この時も武石を経たかも)。栄一は12月満18歳で新五郎

の妹千代と結婚し義兄弟となります。

渋沢家から武石までどのように藍荷物が運ばれたのでしょうか。深谷から陸路を通った場合もあったのでしょうが、利根川の中瀬河岸(港)から烏川の八町河岸まで舟運で、吉井宿(高崎市吉井)・福島宿(甘楽町)・一之宮町(富岡市)・本宿(下仁田町)と各宿・町の問屋を継ぎ送り、信州へは栄一の談話にある峠を越えました。今日の国道254号線筋です。

内山峠の向こうに下仁田町帯野萱という集落があります。そこの問屋の文書に、武州藍の送り人とその量数および荷受け人とその量数の記録が残っていました。送り人には、栄一の父市郎右衛門と新五郎の名前があり、荷受け人の中に佐久地域の紺屋に交じって「武石 酒田条右衛門」がありました。安政4年(1851)から6年(1853)の『上田藩紺屋職鑑礼請人帳』には、武石村世話役の下武石村酒田条右衛門ほか、上武石村彦右衛門・嘉十・惣次郎・文左衛門・孫十、余里村多吉、小沢根村佐忠太の名があるので、栄一は芦田宿から依田窪病院脇へ至る大内道を下って(まさに254号線)これらの家を訪ねたのでしょう。

伊能忠敬はこの道筋中、本宿から先を二度にわたって測量しています。江戸方面に行く近道として人や物の動きが多く、注目したからと思われます。



本宿 (下仁田町)の入口から内山峠方面を臨む

武石を盛り上げる 人やグループ紹介

# 武石の人の団体

# 武石高齢者クラブ 会長 上平 征男さん

正石地域には、現在18の自治会中11の高齢者クラブがあり、約500名が登録加入者となっています。(武石地域で65歳以上の人口約1300人に対して約39%の加入率)

高齢者クラブは、各自治会単位で設立されており、 クラブ毎に活動を行っていますが、クラブの名称は、 「シニアクラブ」、「ひまわりクラブ」など様々です。

武石高齢者クラブ(会長:上平征男さん)は、これら11の高齢者クラブが集まった組織で、年に2回の武石マレットゴルフ大会や、武石体育館でのニュースポーツ大会などを開催、小中学生の通学見守り隊や女性部会の特養[ともしび]での洗濯物たたみなど奉仕活動もしています。また歴代の会長、役員の皆さ



んの積極的な活動により、カラオケ、マージャン、ヨガ教室、軽スポーツなどの会が出来て、高齢者が参加して楽しむ場づくりが行われてきました。

高齢者クラブは、クラブ 数の減少と加入者数の減少

という課題を抱えています。これは武石地域に限ったことではなく、全国的に同様な傾向にあります。 大きな問題は新規の加入率が低い事にあり、結果としてクラブ会員が高齢化し、クラブの維持が困難になって活動を止めてしまうという事態も発生しています。

「新規加入の促進には、クラブの活動を魅力的なものにする事が大切だと思います。参加して人と会える場づくりが大事です。高齢者クラブでは体を動かす場がたくさんあるので是非参加してください。高齢者クラブが仲間づくりの場となって欲しい」と上平さんは話していました。

「ここで歌うとすっきりして 若返ります」とマイクを持つ 手にも力が入ります。 仕切り板の設置やマイクの消毒などコロナ対策もバッチリです。



#### 健康マージャン(水・土 午後1時~4時)



ツモった牌を見せておしゃべりをしながら役作り、 和気あいあいとマージャン卓を囲む皆さんです。

#### 女性部会 手芸教室(クラブ毎に少人数で実施中)



お気に入りの布で作る「カードケース入れ」作り。先生の指導の下、小一時間で完成、「ちょっと難しかったけど上手にできたね」と満足の笑顔でした。

武石高齢者クラブでは新規会員を募集しています。お近くの高齢者クラブ、又は 武石高齢者クラブ事務局(上田市社協 武石地区センター内 電話85-2466)までお問い合わせください。